大阪インターナショナルチャーチ　　ダニエル・エルリック牧師　　2012 年 5 月 13 日
シリーズ: 使徒言行録 #19　　聖書個所: 使徒言行録 6:1-7　　中心聖句: 使徒 6:3
タイトル: 初代の執事　　特別行事: 子どもたちのためのメッセージ、母の日

I.　導入

おはようございます。ゴールデンウィークの間、いなかった人が多いと思うので、改めて今年の目標についてお知らせします。二週間前に開かれた年次総会で、私から OIC の皆さんに特別な目標を提案しました。それは、「神の栄光のためにこの会堂をいっぱいにしましょう」というものです。福音は良き知らせですから、私たちはすべての人にイエスを知ってほしいと思っています。そして、この大阪の地をはじめすべての場所でイエスの御名を宣べ伝え、神に栄光を帰したいと思います。

もう少し具体的に、祈りの形で同じ目標を言い換えるとこうなります。「具体的に私の祈りは、私たちが愛と伝道の心において成長し、2013 年 3 月 31 日のイースター礼拝が始まる午前 10 時には、この会堂が神をたたえ主イエスの復活を感謝する人でいっぱいになっていることです。 」これは大きな目標です。けれども、私たちがひとつになって主の御前に祈り、仕えるなら、実現可能だと思います。イースターの日に、この会堂が満員になって、みんなが神に感謝を捧げている姿を想像してみてください。たくさんの兄弟姉妹がひしめきあって、イエスの復活を祝い、神をたたえる喜びを想像してみてください。そうなるように祈り求めるのは、すばらしいことではないでしょうか。

祈りなしにこの目標の実現は不可能です。けれども、祈ること以外にも、私たちにできることがたくさんあります。貢献できる秘訣は愛です。ヨハネ **13:34-35** で、イエスは弟子たちにこうおっしゃいました。**「13:34 あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。 13:35 互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」**私たちが互いに愛し合う様子を世間の人たちが見れば、自然とその交わりに加わりたいと思うでしょうし、イエスのことも知りたいと思うようになって救われるでしょう。目標は会堂をいっぱいにすることです。しかし、目的は神に栄光をもたらすことです。そこで重要なのは愛です。

初代教会の時代、人々は互いに愛し合い、すべてのものを共有し、交わりのときを十分に持ちました。前回、使徒言行録のメッセージを語った際の聖書個所は、**使徒 5:42** で締めくくられていました。**「5:42 毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた。」**この個所を読むと、ここに集うクリスチャンの喜びや愛が伝わってきます。皆さんもそう思いませんか。これこそ、交わり、愛、そしてイエスの福音宣教に徹するクリスチャン生活です。

初代のクリスチャンの模範に倣いましょう。そうすれば、私たちもこう宣言することができます。*「私たちはクリスチャンです。イエス・キリストに従う者として、私たちは神を愛します。また、神がお造りになった人類を愛します。それゆえ、祈りをとおして神とともに時を過ごします。人々に仕えることでイエスの愛を表します。周りの人たちがイエスの愛を知り、救われるように、イエスを宣べ伝えます。」*今はこのような生き方をしていないという人もいるでしょう。しかし、神の恵みによって、私たち皆がこうなるようにとお祈りしています。私たちだけでなく、私たちの家族や友人、隣人もそうなるようにとも祈っています。

では、今日の聖書個所に進みましょう。使徒言行録 6:1-7 を読みましょう。

II.　聖書朗読　使徒言行録 6:1-7 (新共同訳)

6:1 そのころ、弟子の数が増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。それは、日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられていたからである。 6:2 そこで、十二人は弟子をすべて呼び集めて言った。「わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない。 6:3 それで、兄弟たち、あなたがたの中から、“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。 6:4 わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。」 6:5 一同はこの提案に賛成し、信仰と聖霊に満ちている人ステファノと、ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、アンティオキア出身の改宗者ニコラオを選んで、 6:6 使徒たちの前に立たせた。使徒たちは、祈って彼らの上に手を置いた。 6:7 こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った。

III. 教え

文化的背景から、ローマ帝国統治下に住んでいたユダヤ教徒には大きく分けて 3 つのグループがありました。ひとつめのグループはヘブライ語を話すユダヤ人です。彼らは生まれも育ちもイスラエルで、原語のヘブライ語で旧約聖書を読みました。ふたつめのグループはギリシャ語を話すユダヤ教徒です。彼らは、生まれも育ちもイスラエル以外の場所ですが、ユダヤ教徒として育てられた人々です。七十人訳と呼ばれるギリシャ語に翻訳された旧約聖書を読みました。3 つめのグループは、改宗者です。彼らは、ユダヤの信仰を持たない家庭に生まれ育ち、改宗してユダヤ教徒になった人々です。改宗者は、ギリシャ語を話すユダヤ教徒の一派とみなされることもありました。というのも、彼らのほとんどはイスラエルの出身ではなく、ヘブライ語がわからなかったからです。

ユダヤ人がユダヤ教の信仰を積極的に広めていたということは、見落とされがちな事実です。**使徒 15:21** には、このようにあります。**「モーセの律法は、昔からどの町にも告げ知らせる人がいて、安息日ごとに会堂で読まれているからです。」**ヤコブがここで言っているとおり、ユダヤ教の教えはローマ帝国および以遠までも広められていました。ギリシャ語を話すユダヤ人と改宗者たちは、さまざまな人種や国の人々でした。彼らが持つ共通点は言語でした。当時、ローマ帝国で広く話されていたのがギリシャ語だったからです。

では、改めて**使徒 6:1** を見てみましょう。 **「そのころ、弟子の数が増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。それは、日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられていたからである。」**使徒 5 章の終わりと 6 章のはじめとの間に、少し時が経ったようです。ルカの「そのころ」という言葉からそれが伺えます。その間に、ギリシャ語を話すユダヤ人とヘブライ語を話すユダヤ人の間に、文化や言語の違いから緊張関係が生まれました。もしかすると何らかの差別があって、苦情が出たのかもしれません。初代教会の時代においても、クリスチャンは人間だということがわかります。ですから、問題は起こります。

ここ OIC でも、私たちは皆人間ですから、問題が起こることもあります。その問題の多くは、文化や言語の違いに起因します。しかし、私たちは自分の心をしっかり見張り、人間関係を良好に保たなければなりません。常に、互いに愛し合うことに焦点を置く必要があります。互いに愛し合うことを何より優先させるなら、多くの問題を未然に防ぐことができるでしょう。また、問題が起こったとしても、良い解決策を見つけることができるはずです。

今日の聖書個所で、教会は問題の解決策として、7 人の人を選んで日々の食事の分配を任せました。**使徒 6:5b** には、選ばれた人々の名前が書かれています。**「信仰と聖霊に満ちている人ス**

テファノと、ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、アンティオキア出身の改宗者ニコラオを選んで、」私たちにはわかりにくいことかもしれませんが、使徒言行録が書かれた時代に読んだ人たちは、これらの名前がすべてギリシャ語の名前であることにすぐに気づいたはずです。つまり、会衆全体の了承を得て、ギリシャ語を話すユダヤ教徒が日々の食事の分配を任されたのです。それは、ギリシャ語を話すユダヤ人のやもめがないがしろにされることのないためです。また、ここには改宗者が含まれていることも特記されています。改宗者がひとつのグループとして認められていることをはっきりさせるためでしょう。難しい問題をうまく解決したわけです。

多くの聖書学者は、この 7 人の人を最初の執事と考えています。使徒言行録の後半から、執事は説教や教えにも関わっていたことがわかります。しかし、執事の主な働きは、教会の物質的なニーズの世話をすることでした。新約聖書には、執事の働きについて述べられた箇所がたくさんあります。また、教会史を見ると、これが教会の一般任務として確立されていきました。新約聖書には、女性が執事として奉仕した例も記されています。ですから、執事は男性だけでなく女性もいました。例えば、**ローマ 16:1** にはこうあります。**「ケンクレアイの教会の奉仕者でもある、わたしたちの姉妹フェベを紹介します。」**新共同訳では、「奉仕者」と訳されていますが、他の訳では執事となっています。

執事は、教会に仕える奉仕者です。ですから、奉仕者という訳は間違いではありません。けれども、ここではっきりさせたいのは、男性も女性も執事として奉仕したことを聖書が明確に記録している事実です。これを明らかにしている訳もあります。例えば、新改訳ではこう訳されています。**ローマ 16:1 「ケンクレヤにある教会の執事で、私たちの姉妹であるフィベを、あなたがたに推薦します。」**

では、どのようにしてこの奉仕にあたる 7 人を選んだのか、見てみましょう。使徒 **6:2** はこう語ります。 **「そこで、十二人は弟子をすべて呼び集めて言った。『わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない。』」**使徒たちは、すべての弟子を集めました。言い換えると、問題を解決するために、教会全体の総会を持ち始めたのです。そして、**使徒 6:3-4** にはこうあります。**「それで、兄弟たち、あなたがたの中から、“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。 6:4 わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。」**誰がその 7 人を選びましたか。使徒たちが選んだのではありません。教会全体に、自分たちの中から 7 人選びなさいと伝えました。

使徒 6:5-6 「一同はこの提案に賛成し、信仰と聖霊に満ちている人ステファノと、ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、アンティオキア出身の改宗者ニコラオを選んで、 6:6 使徒たちの前に立たせた。使徒たちは、祈って彼らの上に手を置いた。」使徒たちは会衆が 7 人を選ぶように言いました。それを受けて、会衆が 7 人を選びました。そして、使徒たちが選ばれた人たちに手を置いて祈ったことで、その決断を承認しました。この過程を見ると、使徒たちに権威があることは明らかです。しかし、問題をどのように取り扱うかを決める中心的な役割を会衆全員が担うことを使徒たちが奨励していたこともわかります。

二週間前に開かれた年次総会で、私たち OIC の会衆は新年度の役員を選びました。来週、この新役員の方々にステージに上がっていただきます。役員を皆さんに改めて紹介し、彼らのために祈るためです。使徒 6 章で 7 人が選ばれた方法と、私たちが役員を選んだ方法に一貫性があることはたいへん喜ばしいことです。しかし、違いもあります。例えば、OIC では、役員の任期は一年ですが、使徒言行録では任期はなく、一度選ばれると変わることはありません。

使徒言行録を読み進めていくと、教会はエルサレム以遠に広まり、直接使徒たちの監督下にない集会がそれぞれの地域で生まれます。そのころ、初代教会には、執事とともに長老もいたことがわかります。長老と執事は、奉仕の役割が多少異なります。長老は教えや説教、祈りといった、

もともと使徒たちがしていたような役割が中心です。一方、執事はここで選ばれた 7 人のように、日常的な奉仕が主な役割です。使徒言行録の学びを進め、初代教会のあり方から学びつつ、今後 OIC の運営方法を変えていくべきかどうか考えていくつもりです。もちろん、大きな変化については、教会規約に則って、教会総会を開き、そこで承認される必要があります。ですから、いくつかのことについて改革を検討することはあっても、知らないうちに勝手に変わっていたというようなことにはなりません。きちんとした手順を踏みます。

使徒 6:7 「こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った。」当面の問題は解決しました。指導者の責務が分割されたことで、使徒たち、そして後に長老たちは、祈りやみことばの教え、イエスの福音伝道に時間と労力を注ぐことができました。この 7 人と後に出てくるすべての執事たちは、実務的な働きをきちんと行い、責任を持って教会の所有物を管理することに従事しました。どちらも不可欠で重要な働きです。しかし、違った役割であり、それは違った召しと賜物を意味します。とは言え、奉仕の役割が違っても、それしかしないということではありません。来週読む個所では、選ばれた 7 人のうち少なくとも一人は、説教と教えにも携わっていたことがわかります。それに、使徒たちも時間が許す限り、実務的な奉仕もしたでしょう。けれども、祈りとみことばが彼らの最優先事項だったのです。

IV.　結び

問題を提起し、解決するとき、教会にとっては成長のチャンスです。神と教会の敵であるサタンは、誘惑、動揺、偽りの教えなど、あらゆる企みで教会をばらばらにしようとします。けれども、祈りやみことばの知恵、聖霊の力によって、邪悪な敵の策略に打ち勝つことができます。使徒 6:7 で、教会が急成長したこと、そして多くのユダヤ人祭司までが信仰に導かれたことが記されています。これは注目すべきことです。というのも、祭司たちは、神殿でいけにえを捧げる役割を任されていた人たちだからです。キリストを受け入れたら、神殿での役職は退いたはずです。イエス・キリストが一度きりの完全ないけにえを十字架でささげられたからです。

最後に、預言者イザヤのことばを読みたいと思います。この言葉は、イエスが私たちの罪の代価を十字架で払ってくださったことを思い起こさせてくれる個所です。**(イザヤ書 53:5-6) 「53:5 しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。 53:6 私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。」**

では祈りましょう。

V.　祈り

愛する天の父よ、

あなたの聖名をほめたたえます。そして、驚くべき恵みとあわれみを感謝します。あなたの御力と知恵は人知を超え、あなたの栄光は永遠に変わりません。あなたの愛は尽きることがなく完全です。主なる全能の神よ、キリスト・イエスの十字架で、あなたはご自身の恵みを示し、その愛を明らかにしてくださいました。私たちがそのことをいつも覚えていられるように助けてください。あなたを信頼し、あなたの聖霊によって歩めるように助けてください。日々、知恵と力を与えてください。あなたの聖なる御名をたたえます。すばらしい愛と恵みを感謝します。イエスの尊い御名によって祈ります。アーメン。